

チリ共和国との震災教訓の共有（河北新報社「むすび塾」実施支援）

掲載日:2013年12月2日 (C)河北新報社

# 国境超え津波災害に備え

## 「むすび塾」 南米チリへ

国境を超えて東日本大震災の教訓を共有し、今後の備えに生かすため、河北新報社は国際交流基金とともに巡回ワークショップ「むすび塾」を6、8の両日、南米チリの2都市で開催。海外での開催は4月のインドネシアに続き2度目。



22時間後に日本に到達し、国内で142人が犠牲になった。

チリ沿岸部は2010年2月に発生したマグニチュード(M)8.8の巨大地震と津波で、甚大な被害を受けた。宮城県内の被災者2人が震災の語り部として参加し、太平洋を挟んで向かい合う両国の被災者が、津波災害の伝承と対策について話し合う。

一行は3日に日本を出発し、4日にチリに入った後、10日まで首都サンティアゴ市などに滞在する。被災した埠頭(ふ頭)や震災を伝える記念碑の視察、現地小学校と高校の訪問を予定している。

### 6、8日2都市で開催

にマウレ州のコンステイトウシオン市、8日にヒオビオ州のタルカワアノ市で開催する。被災・復興支援機構(東京)の木村拓郎理事長が進行役を務める。語り部と現地住民代表が、それぞれの震災の体験を振り返り、被害の軽減策について意見交換する。

チリは観測史上最大のM9.5を記録した1960年の地震をはじめ、たびたび大きな地震と津波に襲われている。60年の津波は約

